

廃炉プロセス 「汚染水対策」

検討対象 「現状把握」

課題 「汚染源の現状把握」

## ニーズ

### 1. 汚染源の現状を把握したい。

汚染水対策：【短期】

#### 望ましい現状とその理由

- 汚染源を取り除くためには、汚染源の現状を把握することが望まれる。
- 汚染源としては、建屋内滞留水以外にも、過去に建屋周辺土壤中に漏れ出た汚染水も対象となる。
- 原子炉建屋をドライアップするにあたり、水中の干渉物を把握できることが望ましい。

#### 理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- 建屋内滞留水の性状（核種量含む）を把握する必要がある。
- 建屋周辺土壤中に漏れ出た核種量を正確に把握するため、継続的なモニタリングや評価技術が必要である。
- 特に、水中の干渉物を把握するにあたっては、真っ暗な水中で干渉物を把握しなければならないという困難性があり、超音波技術等により検知する必要がある。

#### （参考）関連する研究課題

##### 実施されている研究課題

- R3 年度英知「中赤外レーザー分光によるトリチウム水連続モニタリング手法の開発」

##### 検討されている研究課題

- 東京電力 HD 処理水ポータルサイト「多核種除去設備等で浄化処理した水からトリチウムを分離する技術」
  - － <https://ninesights.ninesigma.com/servlet/hype/IMT?documentId=666c41b118b9f52b19b01661e213f87b&userAction=Browse&templateName=>

## 関連する課題

- 汚染水-301「効率的・効果的な水処理」
- 汚染水-302「α 核種や難測定核種の測定」

- デブリ-203「建屋内エリアの作業員被ばく管理」
- 共-3「測定・分析技術」